スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

【山形県白鷹町】
令和５年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	山形県白鷹町
担当課名	教育委員会　学校教育係
電話番号	0238-85-6144

１．自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

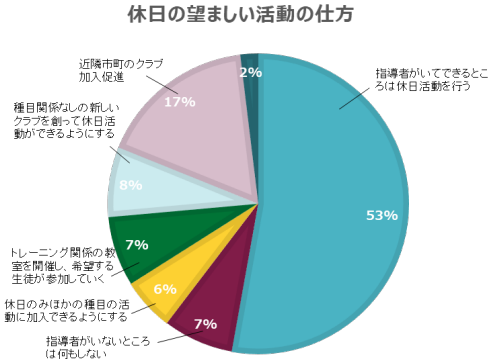
人口	１２，４８２人	部活動数	１５部活
公立中学校数	１校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	３５７人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

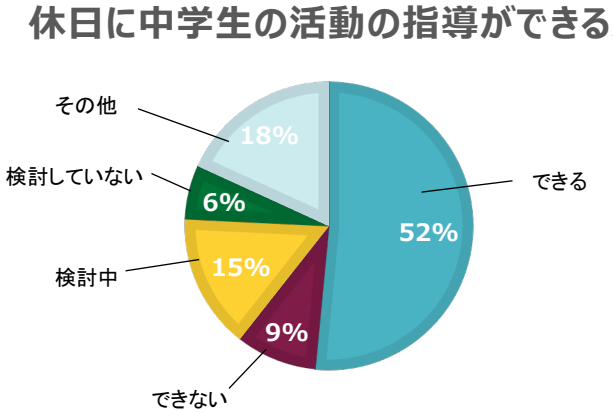
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

令和5年度現在の町内スポーツ少年団数は17団あり、内中学校の部活動と連携して活動を行っている種目が、剣道、柔道、サッカーの３種目となっている。この３つの種目の休日の活動は、ほぼスポーツ少年団としての活動となっている。この他の種目における中学生の休日の部活動の現状は、部活動顧問が休日の活動計画を立て、指導を行っている。他市町にあるクラブに加入している生徒もおり、部活動に入らずクラブの活動に参加している生徒(サッカー)や部活動をしながらクラブ加入をしてどちらも行っている生徒もいる(バスケットボール、陸上）。

スポーツ少年団の指導者(代表)と部活動外部指導者を対象に、「休日の指導について」アンケート調査を行った。その結果から、スポーツ少年団を中心にして地域移行について進めていく考えの指導者が多いことが分かった。また、休日の活動を進めるにあたって、指導者に関する課題（指導者数、頻度、部活動顧問との連携、指導者資格、大会時の役員、指導者謝金）や活動に関する課題（移動(輸送)、スクールバス利用の可否や調整、活動場所、用具、試合等の調整）、運営に関する課題（組織や役割、予算、活動の管理、保険加入、指導者謝金、事務内容、中体連や近隣クラブ等の連携、希望する活動がない生徒の活動場所の検討）など多くの課題が明らかとなった。

また、現小学４～６年生に「中学校入学後の休日の過ごし方についての意識調査」を行い、その結果や実態等と照らし合わせながら、中学生の今後の休日の活動についての方向性を検討し、提案する準備を進めている。

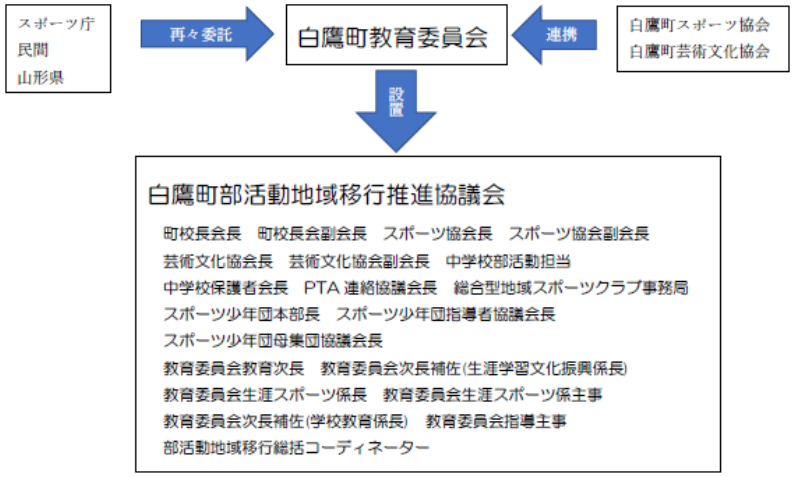




2．実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）（案）



▼行政組織内での役割分担

● **教育委員会**（学校教育係）
総括コーディネーターを設置し、町スポーツ団体およびスポーツ少年団との連絡調整を行う。また、アンケート等を実施し、現状の把握や町民へのアナウンスを行う。

● **首長部局**
白鷹町は、首長部局との役割分担はなし。

年間の事業スケジュール

９月末　第１回白鷹町地域部活動推進協議会
　　部活動地域移行総括コーディネーターの配置
１０月　指導者アンケート調査準備
　　スポーツ庁、県、近隣市町の情報収集と整理
１１月～１２月　指導者アンケート調査配付と回収、集約
　　小学４年から６年生対象のアンケート調査作成
１月　　小学生アンケート調査配信と集約
　　アンケート調査からの課題の整理と今後の方向性の検討
２月　　第２回白鷹町地域部活動推進協議会

2．実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

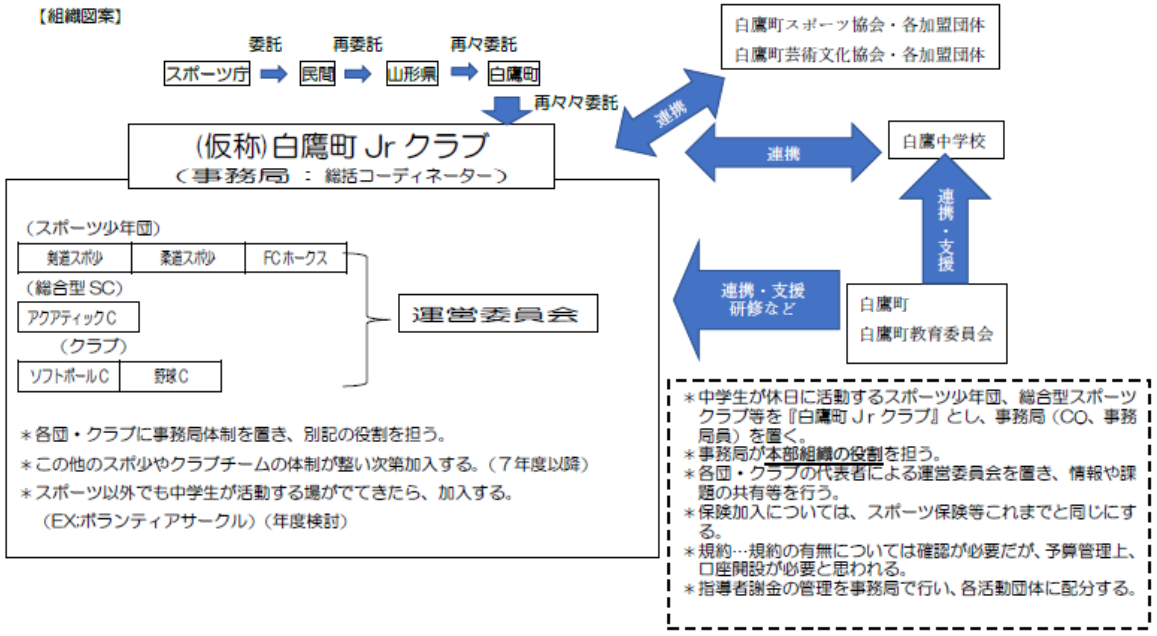
拠点校数	白鷹町立白鷹中学校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	なし
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	0 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	白鷹町立白鷹中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	0 部活
地域クラブ活動で実施した種目	なし
運営主体名	－
運営類型	－
１か月あたりの平均的な活動回数	－
指導者の主な属性	－
活動場所	－
主な移動手段	－
１人あたりの参加会費等（年額）	－
１人あたりの保険料	－

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）R6からの案



2．実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ア．関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・９月に地域部活動推進協議会を実施し令和８年度からの完全実施を目指して、総括コーディネーターの設置。町教育委員会と総括コーディネーターを中心に、運営体制（案）の作成や今後の流れを共有した。
・各種目スポーツ少年団とクラブ指導者対象のアンケートを１１月に、小学４年から６年児童対象のアンケートを１月に実施し、現状把握と課題の洗い出しを行った。
・12月に町スポーツ振興懇談会を行い、立教大学教授より部活動地域移行や地域スポーツについて提案、助言をいただいた。

取組の成果

・1月に実施した小学４年から６年生２９４人を対象としたアンケート（回答率７３%）の結果、回答者の5.4%（16人）が平日および休日において、通年、地域クラブで活動したいと考えている。また、20.1%（59人）が平日の部活動の他に、休日の地域クラブ活動に参加したいという結果となった。
・地域クラブで活動する際の種目について、74.6%（44人）が部活動と同じ種目、25.4%が違う種目という回答であった。P.6～７　参照

特に工夫した事項

・指導の実態や課題、児童アンケートをすり合わせ、課題の整理や解決策、組織の役割等を検討した。それらを基に休日活動ができるかどうかの判断をし、提案した。P.８～９

今後の課題と対応方針

指導者アンケートから見えてきた指導者に関する課題、活動準備に関する課題、運営に関する課題とともに、本部組織や各クラブの役割を精査し、組織として課題解決にあたっていけるように、運営団体と実施主体を整備していきたい。

2．実証内容と成果

スポーツ庁

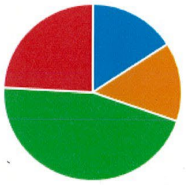
参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

【小学４年から６年児童のトータル結果】

中学校入学後の休日の 過ごし方についての意識調査

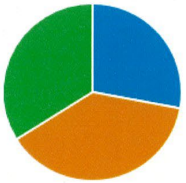
1. 小学校名を選んでください。

垂桑小	34
鮎貝小	31
荒砥小	98
東根小	52



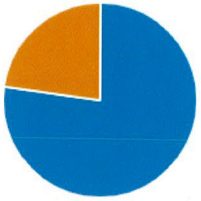
2. 学年を教えてください。

４年生	60
５年生	82
６年生	73



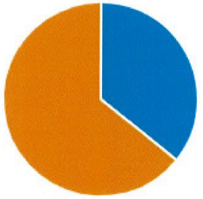
3. 部活動に入りたいですか。

Yes	166
No	49



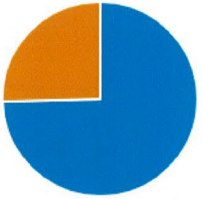
4. 部活動の他に、地域クラブにも入りたいですか。

Yes	59
No	106



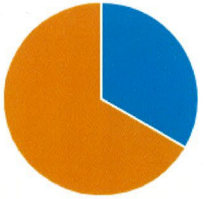
5.【　A　部活動＋地域クラブ　】タイプのみなさん　どの【パターン１】，【パターン２】のどちらを考えていますか。

【パターン１】平日は、部活動で活動...	44
【パターン２】平日は、部活動で活動...	15



6. 地域クラブに入り、活動したいですか。

Yes	16
No	32



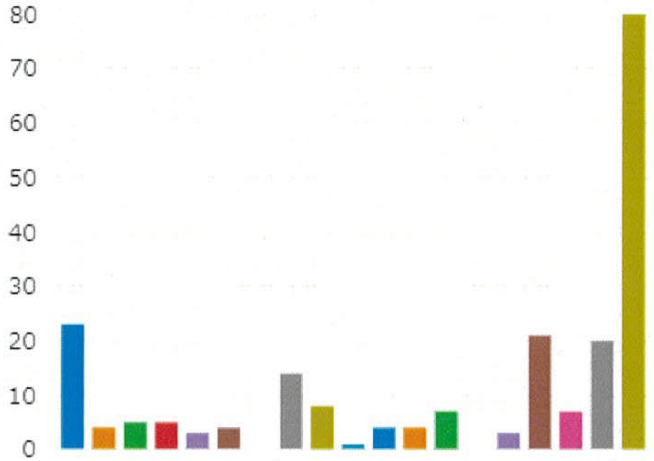
2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

7. 休日（祝日、土曜日または日曜日）は、何をして過ごしたいですか。１つ選んでください。

野球	23
ソフトボール	4
陸上	5
ソフトテニス	5
バスケットボール	3
バレーボール	4
卓球	0
サッカー	14
水泳	8
柔道	1
剣道	4
バドミントン	4
スキー	7
吹奏楽	0
美術	3
習い事（ピアノ，習字等）	21
その他（囲碁、将棋、合唱、ダンス...	7
スポ少やクラブ、習い事等は、しない...	20
まだ分からない	80



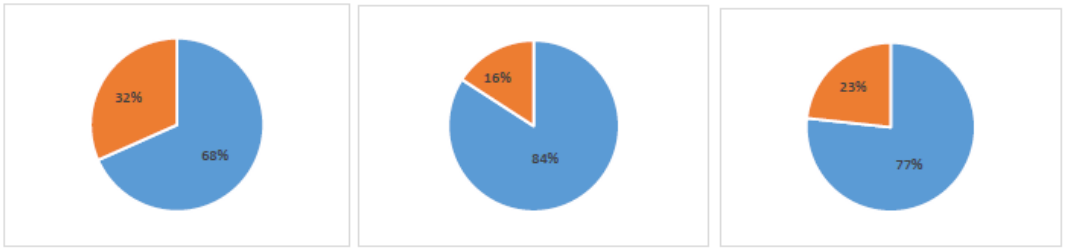
2．実証内容と成果

スポーツ庁

【小学４年から６年児童の学年別結果及び考察】

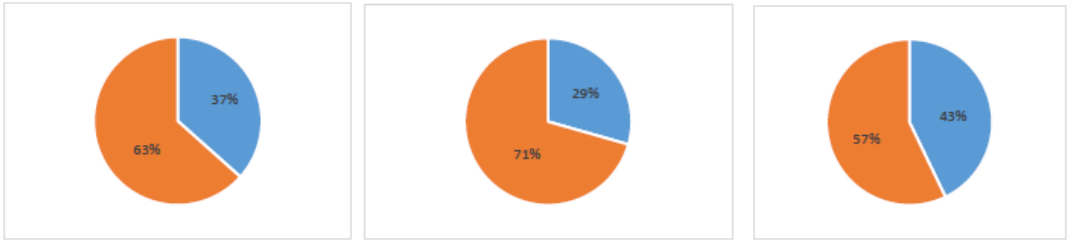
4年　**5年**　**6年**

4部活動に入りたいですか。



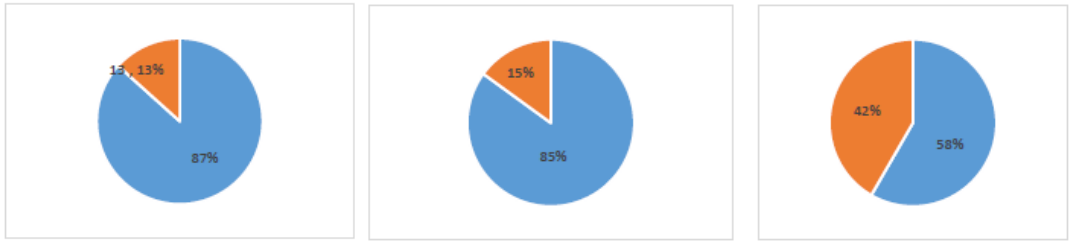
・学年間の違いはあるが、概ね加入を考えている児童は7割強（166人）。未加入を考えている児童は2割～3割（49人）という結果であった。低学年に行くにしたがって、加入希望率は下がる傾向であった。部活動というもの自体への理解が、まだできていないことが要因と考えられる。

5部活動の他に地域クラブにも入りたいですか。



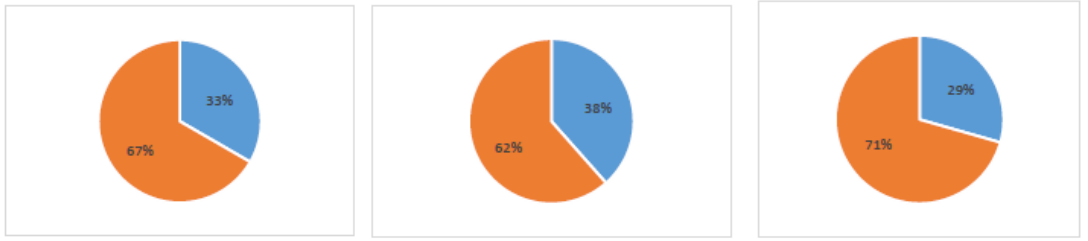
・学年間の違いはあるが、概ね地域クラブ加入を考えている児童は3～4割（59人）。平日の部活動はともかく、休日の活動については、はっきりしていないと考えられる。

6パターン1　部活動＋同じ種目の地域クラブ
パターン2　部活動＋違う種目の地域クラブ　どちらを考えていますか。



・予想通り、「平日　部活動　＋　休日　地域クラブ」を考えている児童は、同じ種目を希望している。小学校（スポ少）で継続してきた種目を中学校でも続けたいという理由と思われる。（小4，5で85%越）　ただし、6年生で58%となっている。中学校への入学をきっかけに、また、別の種目に興味を持ち始めているのか、平日と休日で違うことをしてみたいという考えも推測される。

7（部活動には入らないが）　地域クラブに入って活動したい。

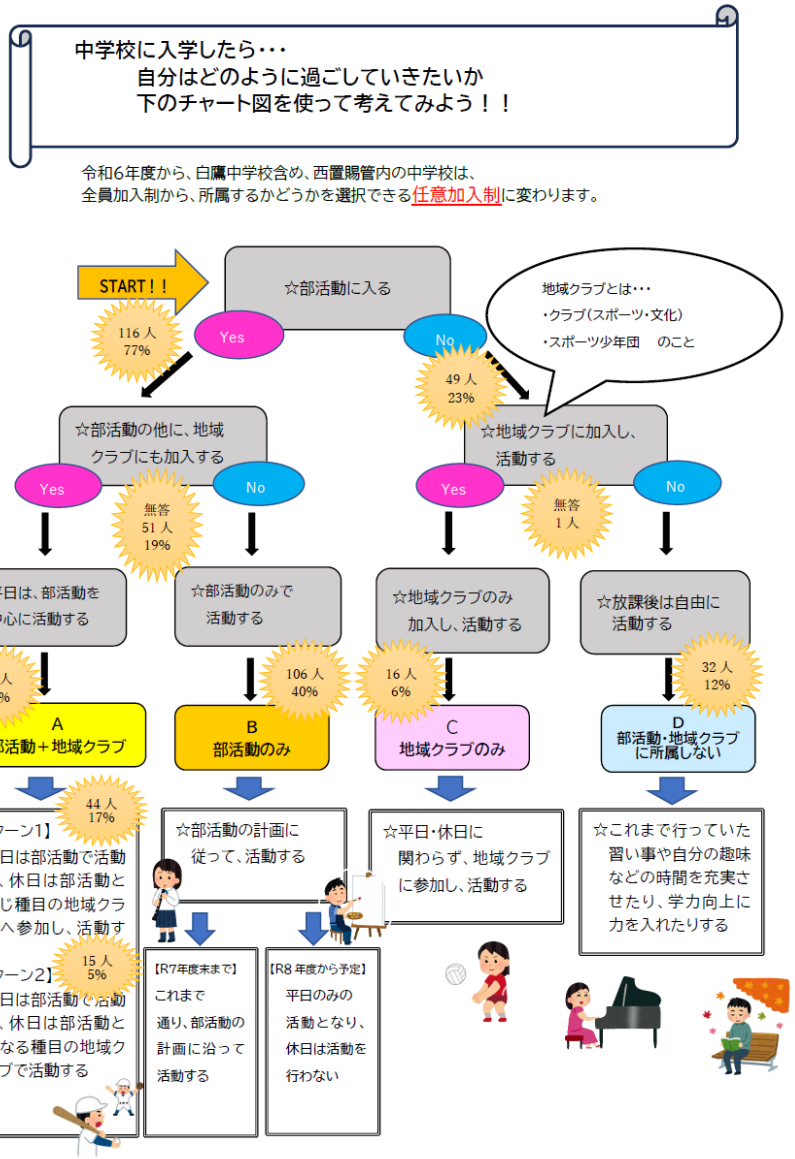


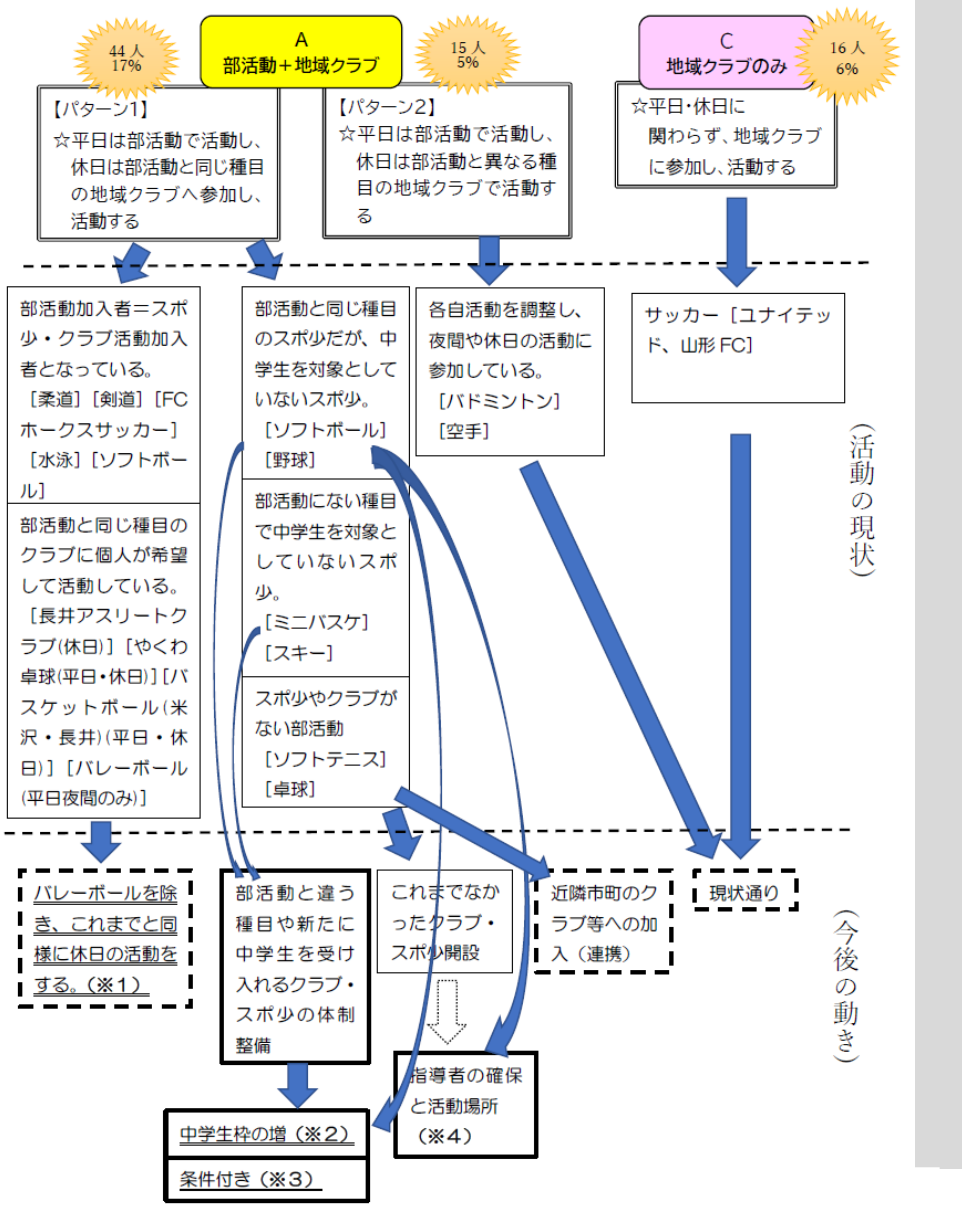
部活動に加入しない予定の児童が49名。そのうち、地域クラブには加入予定の児童は16名であった。既存のクラブ（ながいU、モンテディオ，野球クラブ等？）を継続していくことが理由と思われる。一方、部活動＋地域クラブ　両方に加入しないという児童は32名（約15%）

2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）





2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

種目	部・スポ少	中学生を含むスポ少クラブ活動R5R2現在	休日指導者の引き受けスポ少代表指導者及び外部指導者の有無	指導者の人数	事務的仕事指当者の有無	懸案事項（課題）	休日活動実施可能
野球	野球部		×	1	○	※2　※4 ・外部指導者及びスポ少指導者体制の確立 ・スポ少の統一化は？	
	リトルホークススポ少		△	10	○		
	鮎貝野球スポ少			3			
ソフトボール	ソフトボール部	クラブ	○	2	○	・合同チームとしての動き ・スポ少に加入して活動？ ・基盤となる組織を作るかによる	△
	フェニックスJr スポ少		○	4	○	※2　※4 ・中学生加入となった時の指導体制や指導内容、事務体制、場所	○
サッカー	サッカー部	スポ少 (FC ホークス)	○	8	○	・人数の減 ・クラブとして中体連登録はしない方向。 ・２つのスポ少があるのでそれぞれのところでの活動はできる。	※1 ◎
	FC ホークススポ少	小学生	○	7	○		
	エスペランサFC スポ少	白鷹中の生徒はいない。	○	6	○		※1 ◎
テニス	男子テニス部		×			・指導以外の業務	
	女子テニス部		○	1	？		
卓球	卓球部	任意クラブ教室あり 外部クラブ加入者あり	△	2	？	※4 ・場所の問題 ・指導者の確保	△
剣道	剣道部	スポ少	○	5	○	・指導者資格の有無	※1 ◎
柔道	柔道部	スポ少	○	6	○	・スクールバスの利用	※1 ◎
バスケットボール	男子バスケ部	外部クラブ加入者あり		1		・外部クラブは中体連加入をしない ・外部加入していない生徒の活動	
	女子バスケ部	外部クラブ加入者あり					
	ミニバスケスポ少		○	5	○	※2　※3 ・ミニバスケスポ少では中学生の希望があれば受け入れ可としているが、保護者の理解を課題としている。また、正式コートでないので練習のみ（ボールの問題）	○
バレーボール	女子バレー部		○	2	×	・指導者の確保 ・日程調整、連絡等	△
	バレースポ少						
陸上	陸上部	外部スポ少に複数名加入し休日練習に参加	○	1	△	・長井アスリートクラブへ ・長井アスリートＣに加入しない生徒の活動	※1 ◎
	ジュニアアスリートスポ少		○	6	○	※3 ・体力づくりとして	○
水泳	水泳部	ロック加盟(高校生含む) 外部団体に個人で加入	○	3	×	・指導者の確保(複数名での体制)	※1 ◎
バドミントン	バドミントン部（中体連加盟）	活動は長井のスポ少で				・これまで通り	
		スポ少	○	3	×	・指導者の確保(複数名での体制)	○
スキー		スポ少（３団体）	○	50	○	※2 ・休日の中学生の活動は可	◎
		レーシングスキースポ少		2		・６年度から活動なし	◎？
空手		スポ少		6		・長井の空手スポ少で活動している生徒	
美術						・個人で	
吹奏楽						・荒砥高校との合同練習？	

パターンA　既存の部活動をベースにクラブ化する

	平　日		休　日
実施活動	部活動	→	クラブ活動 スポーツ少年団活動
運営母体	学校	→	クラブ スポーツ少年団
活動経費	保護者（会）	→	保護者
	学校後援会	→	

メリット	デメリット
○既存の部活動をベースに運営ができる。 ○スケジュール調整（時間・会場）がしやすい。	●教員の負担軽減が図れるか。 ●活動するための用具（ボール等）の管理 ●現在の白鷹中の教室配置では、校舎内全て開放することになり、管理面での不安。 ●コーチ等の外部指導者がいない部活動は活動不可。 ●会場・日程調整

パターンB　白鷹クラブ

	地　域 総合型スポーツ・文化クラブ			地　域 スポーツ少年団		
	代表・クラブ代表指導者			本部長・団代表・指導者		
	指導者 ⇩ 地域クラブ活動	指導者 ⇩ 地域クラブ活動	指導者 ⇩ 地域クラブ活動	指導者 ⇩ スポ少活動	指導者 ⇩ スポ少活動	指導者 ⇩ スポ少活動
可能	陸上　ソフト			サッカー　柔道　剣道		
要検討	女子バレー　男女テニス　卓球 吹奏楽　美術 バスケ　水泳（※別クラブあり）					
活動経費	保護者　白鷹クラブから一律			保護者　白鷹クラブ（スポ少）から一律		
メリット デメリット	○実施母体（指導体制）がない種目について、クラブ化にすることで、生徒のニーズに応じた活動が可能。 ○既存の組織（スポ少）を生かしていくことで、運営のスタートが比較的容易。			●組織設立（クラブ）の規約等、組織体制づくり ●地域クラブとスポ少との相違 ●現在のスポーツ少年団が中学生対象の少年団設立をどう考えるか？　また、指導者として可能か？（活動日数が増より）		

パターンC　白鷹クラブ

地域総合型スポーツ・文化クラブ	実施母体
代表・本部長（スポーツ協会長　芸術文化協会長）	
コーディネーター・事務スタッフ	
代表指導者・指導者 ⇩ 地域クラブ活動 ／ 代表指導者・指導者 ⇩ 地域クラブ活動 ／ 代表指導者・指導者 ⇩ 地域クラブ活動	
陸上　ソフト　サッカー　柔道　剣道	可能
女子バレー　男女テニス　卓球　野球　吹奏楽（中高　合同活動・・荒高） 水泳（※スイミング）　バスケ（※別クラブあり）　美術（土日は個別創作活動）	要検討
保護者　白鷹クラブから一律	活動経費
○実施母体がない種目について、クラブ化にすることで、生徒のニーズに応じた活動が可。 ○既存の組織（スポ少）を生かしていくことで、活動スタートが比較的容易。 ●クラブ設置数・種目の精選・決定、指導者および生徒の確保。 ●町全体として、クラブ化することにより、組織設立、運営（規約、活動、費用、会場）までの検討が必要。	メリット デメリット

10

白鷹クラブ

代表・本部長（スポーツ協会長・芸術文化協会長）

クラブ運営委員会

総括コーディネーター
全体の総括・調整・運営 ↔ 事務スタッフ
全体に関わる会場・日程調整

各代表指導者・指導者・保護者会
活動・指導、大会等の申し込み種目別登録等の手続き

2．実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

現在、町内スポーツ団体で活動されている代表者や指導者に出向き、今後の方向性についての説明を行いながら、実際、指導にあたっている人数や指導者資格等の確認、休日指導の可否他、指導体制や指導内容、課題点等についての意見をとりまとめた。また、12月に開催された白鷹町スポーツ振興懇談会にも参加いただき、沼澤教授の講演をお聞きし、今後の方向性や指導者として必要な知識や技能についても学んだ。

取組の成果

中学生が休日にスポーツ少年団の活動として活動している団体は、現段階では、指導者の量の確保については問題なく進めることができると想定しており、既存の団体を母体としながら、休日の活動については、地域クラブとして活動していける目途がついている。P.１２参照

特に工夫した事項

特になし。

今後の課題と対応方針

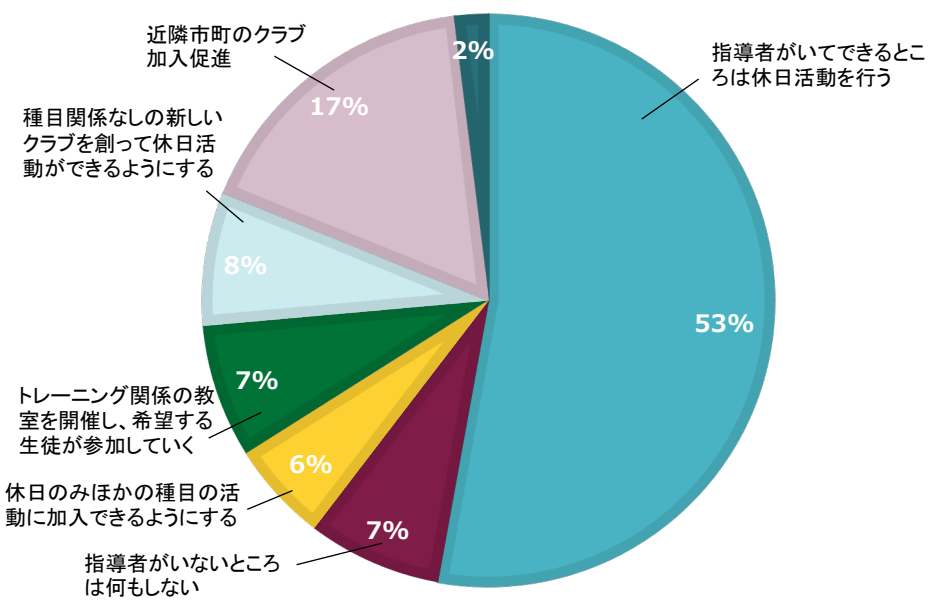
現在、休日にスポーツ少年団として活動している団でも、種目によっては指導者資格がなく指導している人も多い。指導者の質の保証をしていくために、町としてどのように指導者資格を推し進めていくのか、また、独自の研修会を通して、より信頼される指導者として活動できるように、質の向上と資格取得に対する方針をまとめていかなければならない。

また、指導者に対する謝金の財源が最終的な課題となるため、指導人数や指導回数等を基準に必要額を提案していけるようにしたい。自治体レベルでは補助金等の確保が難しい。

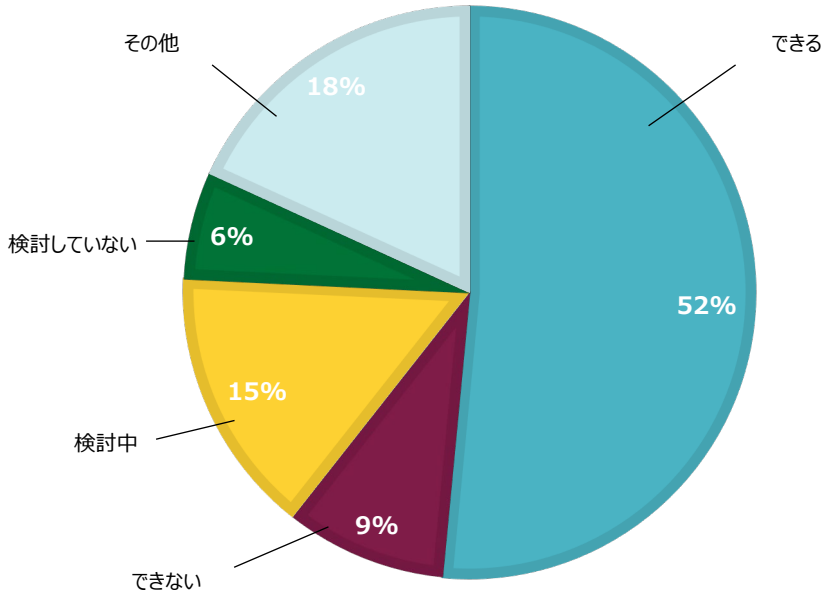
2．実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

休日の望ましい活動の仕方



休日に中学生の活動の指導ができるか



2．実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

令和８年度の完全移行を見据えて、本町では、「地域の子供は地域で育てる」を基軸に、持続可能な活動にしていくことを推進協議会で確認した。令和５年度は、活動の主体となる児童生徒およびスポーツ関係団体の考えを丁寧に聴き取りながら、課題点を洗い出し、実証につなげていくことを大切に進めた。

取組の成果

今年度、２回の地域移行推進協議会やスポーツ団体への説明会、中学校入学説明会の機会に小学校６年生および保護者を対象にした地域移行に関する説明会を行った。また、指導者に対しては、コーディネーターから改革の趣旨の説明、アンケート要請を行った。また、町スポーツ振興懇談会では、地域移行に関する講演をいただいた。様々な意見を聞く中で、地域移行に関しての理解度は、まだまだ高くないことが分かり、ねらいも含め、今後のビジョンを丁寧に説明していくことの必要性を感じた。また、他市町との情報交換を活発に行うことで、今後、想定される他市町との連携についても検討していくことができた。

特に工夫した事項

アンケートの質問項目やパンフレット等も小学生にとっても理解しやすい内容（P.9参照）にし、Formsでアンケートを実施する等、高い回答率を得るよう工夫した（Ｐ６～８参照）。その結果、前年度のアンケート回答率は３８％だったものが、今年度は７３％という回答率となった。

今後の課題と対応方針

令和６年度からの具体的種目を決定し、運営・実施を行う中で、課題を洗い出しながら進めていく。適時、推進協議会および指導者との打ち合わせを行い、円滑に実施できるよう配慮していく。また、児童生徒はもちろん、保護者や町民への丁寧な説明が不可欠であることから、お便りや町ホームページでの掲載、説明会等も検討している。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

指導者アンケートの項目に「休日に学校施設が使用できなくなった場合、活動できる施設の有無」について質問し、町内各体育施設やコミュニティセンター等の施設の洗い出し、種目に応じた場所の確保について検討を行った。
また、各小中学校、近隣の高校の週末の貸し出し状況を町生涯スポーツ係と確認を進めている。

取組の成果

現在、休日の活動は、学校部活動、スポーツ少年団いずれもほぼ学校施設を利用している。休日に学校施設が使用できなくなると活動できない部が半分となることが明らかになった。また、屋外競技でも冬場の活動場所が限られ、冬場や雨天時の活動場所の整備が求められている。

13	中学校校舎利用の室内種目の方に伺います。休日の活動を実施していく上で、中学校校舎内が使えないとしたら、活動場所はありますか。		
⑤	(1)	ある	・山峡体育館（正式コートでないので練習のみ）（ミニバスケ） ・旧鷹山小学校（卓球）
⑤	(2)	ない	・雨天時や冬季は学校が使えないと練習場所がない。長井・米沢は競技場の除雪をしないので、管外（県外）の施設に行かなければならない。（陸上）
【集約と考察】 屋内競技については、場所を変更してできる種目が多いが、冬季の陸上はない。			

特に工夫した事項

特になし。

今後の課題と対応方針

学校施設を中心に使用して活動していけるが、中学校校舎を利用する場合、教室棟への出入りが規制できない状況になるため、学校職員不在の状況での活動はできない。中学校施設を使用できるようにするための改修工事や使用上の約束等の検討が必要である。
冬場の活動場所に課題のある屋外種目については、近隣市町も含めた活動場所の確保について検討が必要である。
学校施設の具体的改修については、使用する団体の今後の活動の見通しや使用上の約束等をつくりながら、町へ要望していく。

2．実証内容と成果

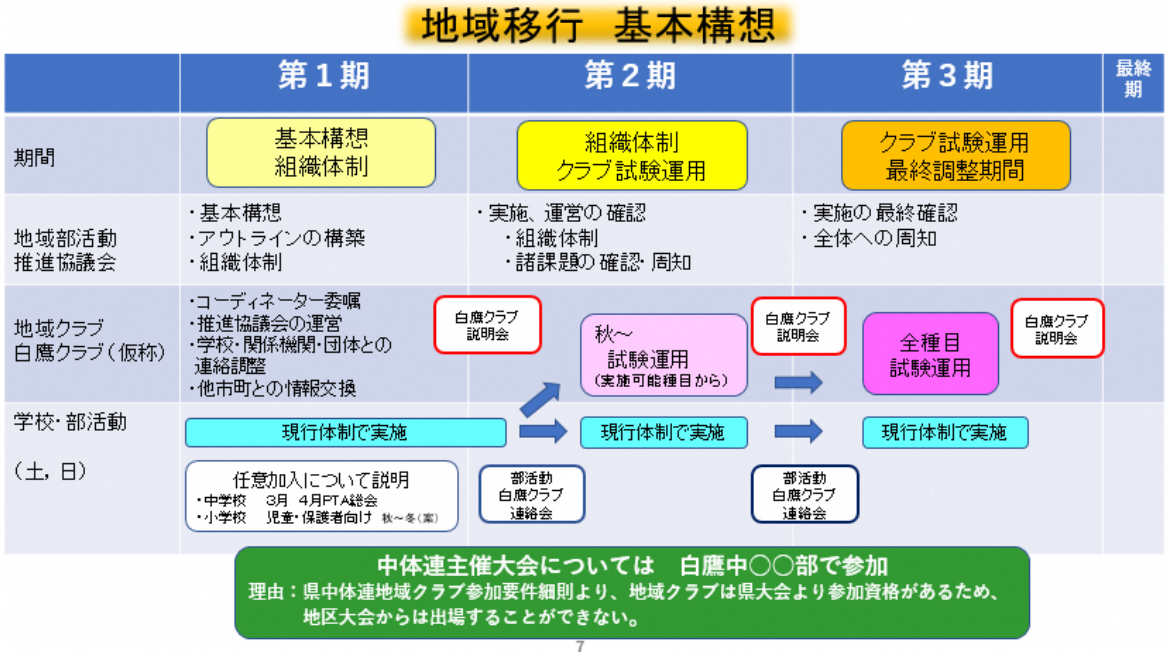
スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年	令和６年		令和７年	令和●年
協議会設置、検討開始	アンケートによる実態把握・関係団体および指導者との意見交換	生徒、保護者への説明および町民への周知	地域クラブ試験運用の開始	諸課題の把握・改善	地域クラブ完全実施

●白鷹町部活動地域移行推進協議会
町スポーツ協会
町文化芸術振興会
町校長会
教育委員会事務局
・令和５年９月に実施。
・現状の確認および基本構想（案）の提案、課題点の洗い出し。
・実施にあたって、主体となる役割を誰が担うのか、指導者の確保、財源の確保ができるのかが大きな課題となった。

●白鷹町地域移行総括コーディネーターを教育委員会事務局に配置
●９月の推進協議会を受けて、より詳細に課題点を洗い出した。また、受け皿となるであろうスポーツ少年団本部との情報交換や指導者へのアンケートを通して、現状把握に努めた。
●地域移行が可能な部活動種目を決め、令和6年度の休日活動の進め方について２月の推進協議会で提案。実証事業開始の時期や期間、今後の指導者謝金、完全移行時の留意点、児童生徒全員へのスポーツや健康のPR等について課題が出された。



3．今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

地域移行　基本構想

	第１期	第２期	第３期	最終期
期間	基本構想 組織体制	組織体制 クラブ試験運用	クラブ試験運用 最終調整期間	
地域部活動 推進協議会	・基本構想 ・アウトラインの構築 ・組織体制	・実施、運営の確認 ・組織体制 ・諸課題の確認・周知	・実施の最終確認 ・全体への周知	
地域クラブ 白鷹クラブ（仮称）	・コーディネーター委嘱 ・推進協議会の運営 ・学校・関係機関・団体との連絡調整 ・他市町との情報交換 白鷹クラブ説明会	秋～ 試験運用 （実施可能種目から） 白鷹クラブ説明会	全種目 試験運用 白鷹クラブ説明会	
学校・部活動 （土，日）	現行体制で実施 任意加入について説明 ・中学校　3月　4月PTA総会 ・小学校　児童・保護者向け　秋～冬（案）	現行体制で実施 部活動 白鷹クラブ 連絡会	現行体制で実施 部活動 白鷹クラブ 連絡会	

中体連主催大会については　白鷹中○○部で参加

理由：県中体連地域クラブ参加要件細則より、地域クラブは県大会より参加資格があるため、地区大会からは出場することができない。

7